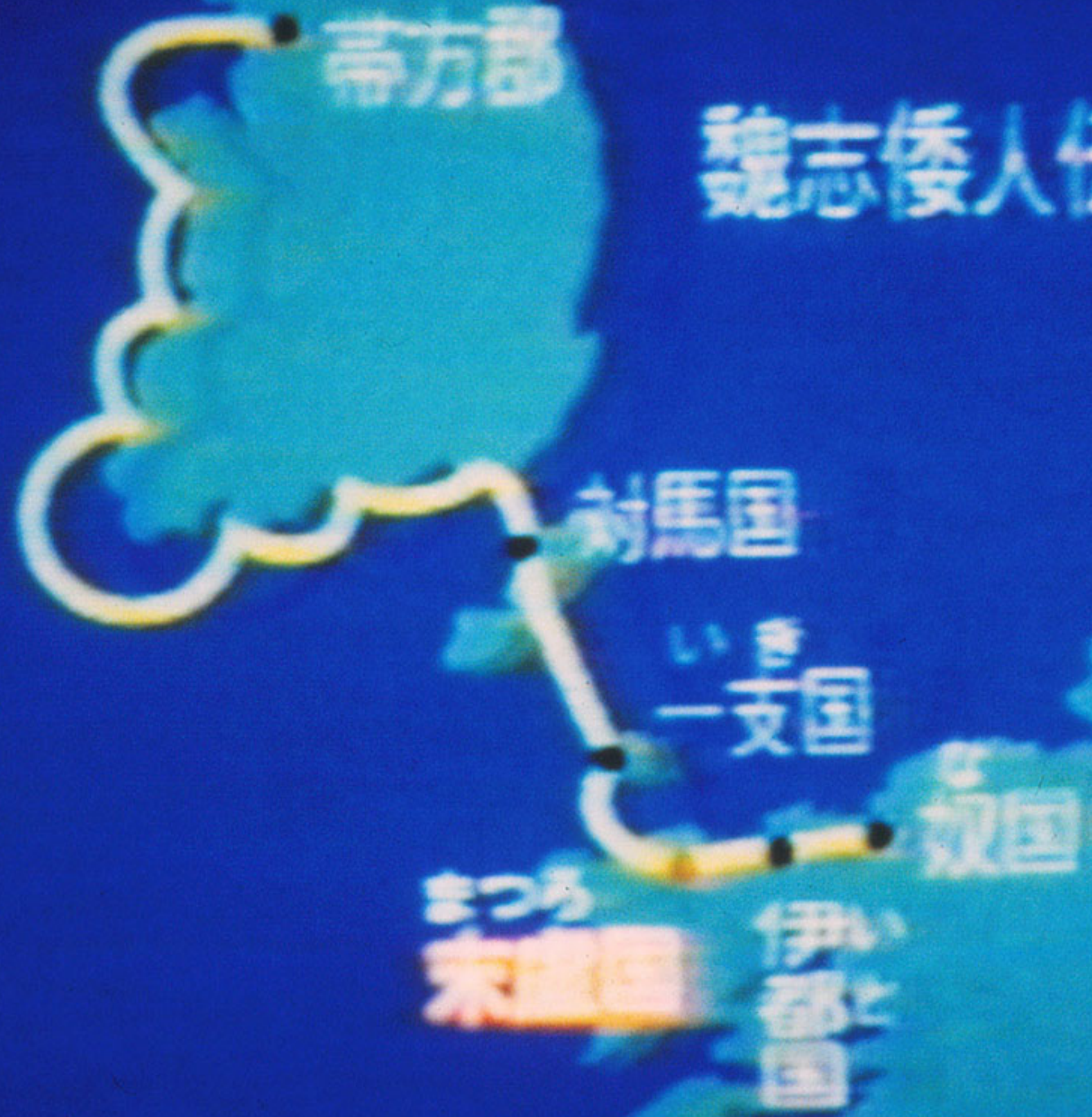


魏志倭人伝のルート



玄界灘

唐津

菜畑遺跡

桜馬場遺跡

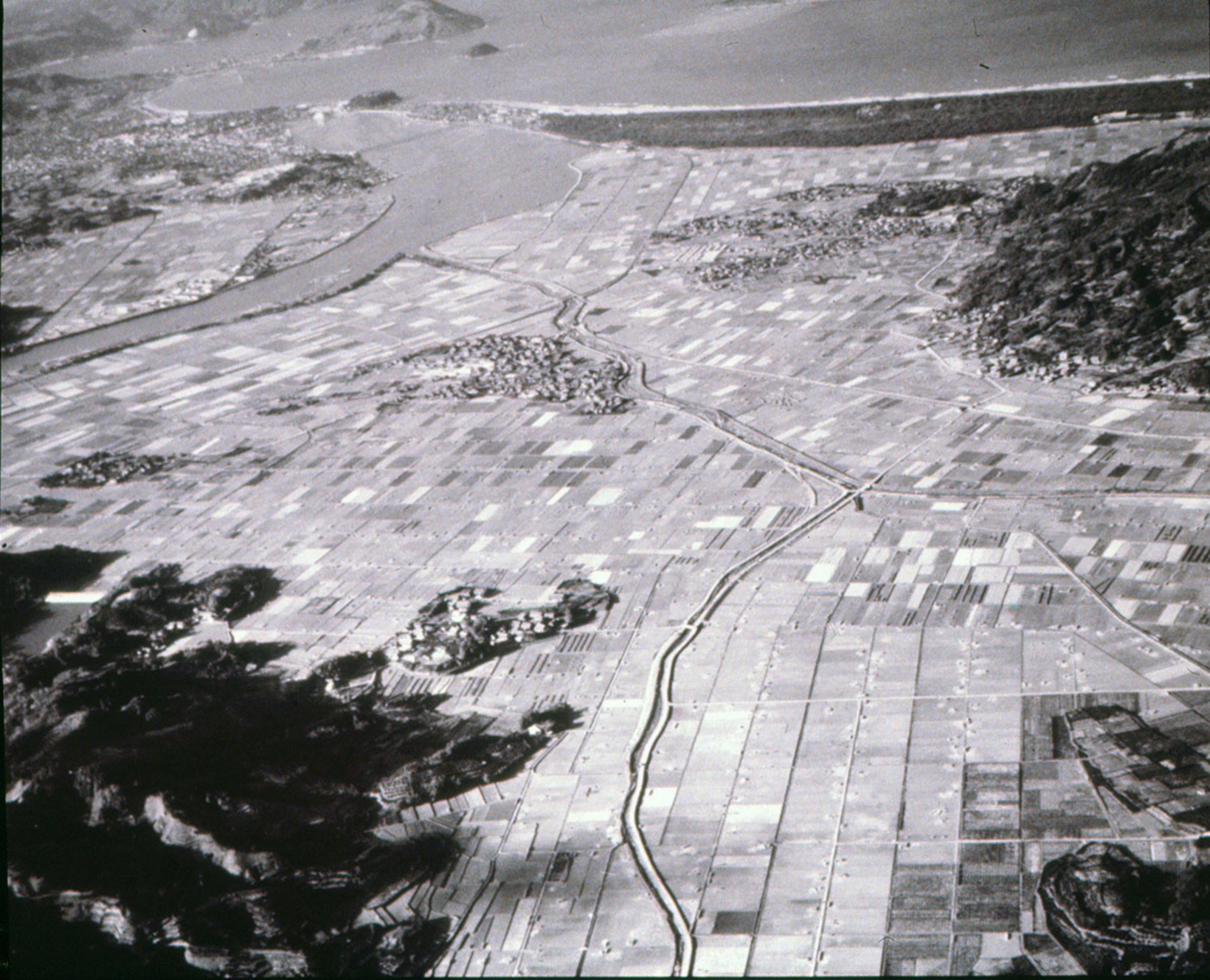
末盧国

宇木汲田遺跡













大友遺跡は過去三回の調査で石棺、カメ棺、
土こう墓などから検出された弥生人骨は百体
を越す 右上に壱岐が望める (呼子町)



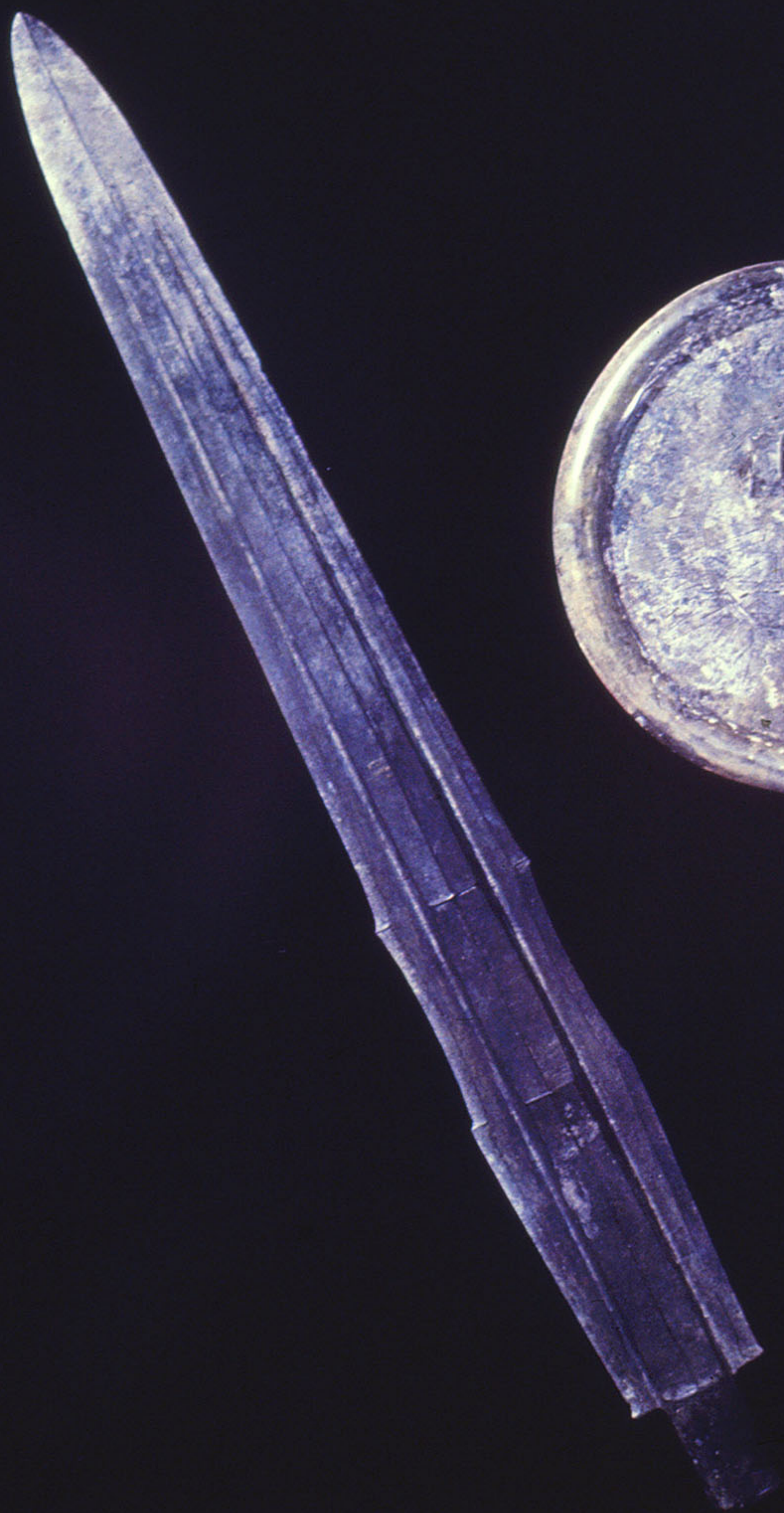












唐津出土の銅剣と銅戈



細形銅剣 汲田11号甕棺



細形銅剣 汲田18号甕棺



細形銅剣 鬼塚山本



細形銅剣 汲田



細形銅戈 汲田58号甕棺



中細銅戈 久里大車田



中細銅戈 浜玉町谷口

唐津出土の細形・中細銅矛



- 1. 汲田37号甕棺
- 2. 汲田41号甕棺
- 3. 汲田112号甕棺
- 4. 汲田
- 5. 汲田
- 6. 久里大牟田
- 7. 柏崎石蔵

1 2 3 4 5 6 7







桜馬場遺跡

SAKURANOBABA RUINS
사쿠라노바바 유적

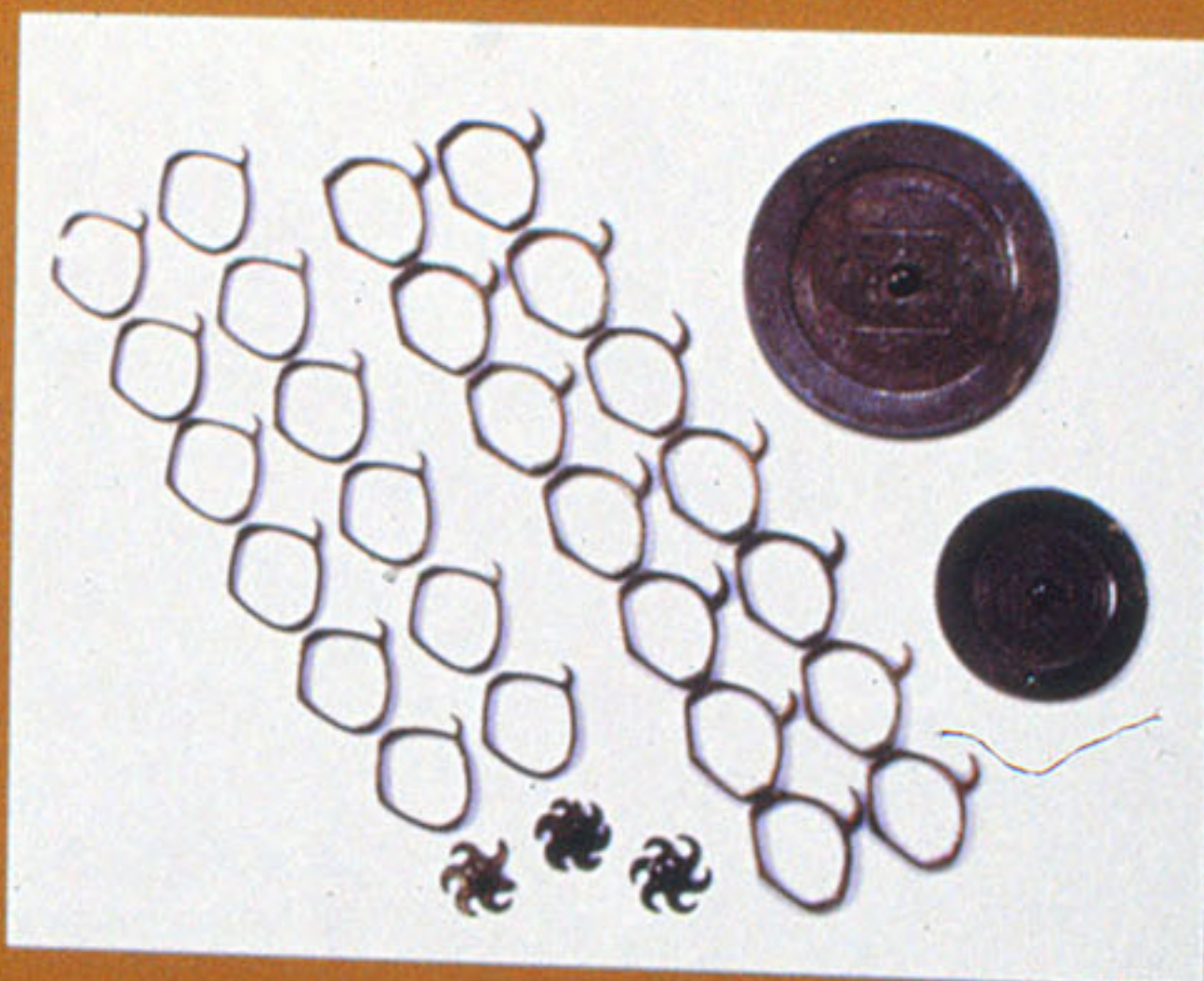
昭和十九年（1944）、防空壕をつくる際に発見された、弥生時代後期の遺跡です。その際に出土した甕棺内からは、方格規矩鏡（後漢鏡）二面、有鉤銅釧（青銅製の腕輪）二十六点、巴形銅器（盾などに装着した魔除けと考えられている）三点、ガラス製小玉などが出土しました。これらの資料は、昭和三十二年（1957）に国の重要文化財に指定され、現在は佐賀県立博物館に保管されています。また、このような豊富な副葬品をもつことから、魏志倭人伝に記されている末盧国の王墓ではないかとも考えられています。

その後、数回の学術調査を経て、平成十九年（2007）に再度発掘調査が行われ、昭和十九年に掘られた防空壕跡とその際に出土した甕棺の正確な位置が確認されました。また、巴形銅器二点、素環頭大刀（柄頭に環状の飾りが付いた大刀）のほか、ひすい製勾玉、碧玉製およびガラス製の管玉、ガラス小玉など多くの資料の出土も確認されました。現在当地は、市の史跡に指定されています。

唐津市



平成19年出土資料



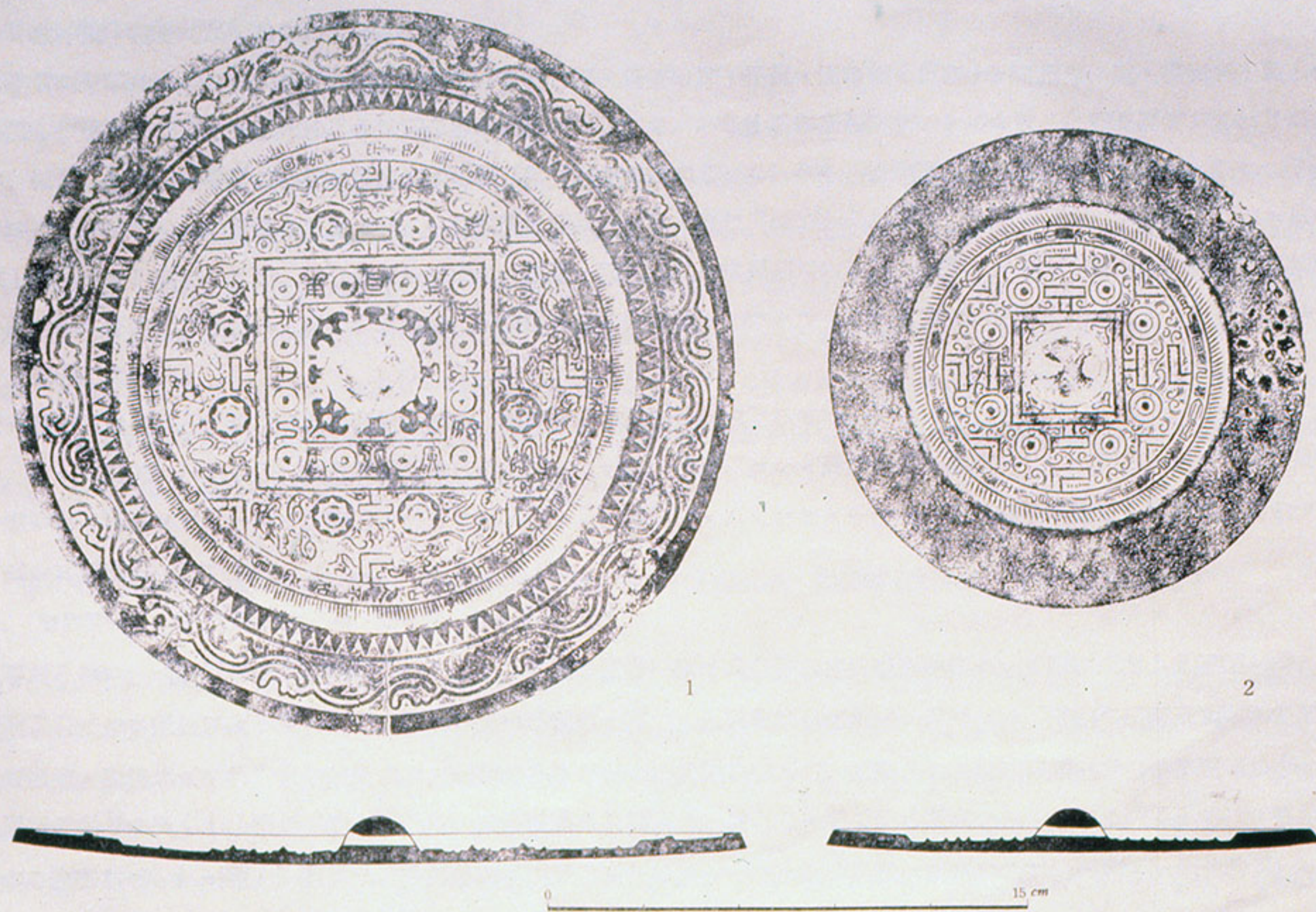
昭和19年出土資料
(国指定重要文化財)

桜馬場かめ棺遺跡

ここから約 20m 先







第6圖 桜馬場遺跡出土宝器内藏甕棺内発見銅鏡実測図
(1 流雲文縁方格規矩四神鏡, 2 素文縁方格規矩渦文鏡)



1a

2a

3a



1b

2b

3b



1c

2c

3c





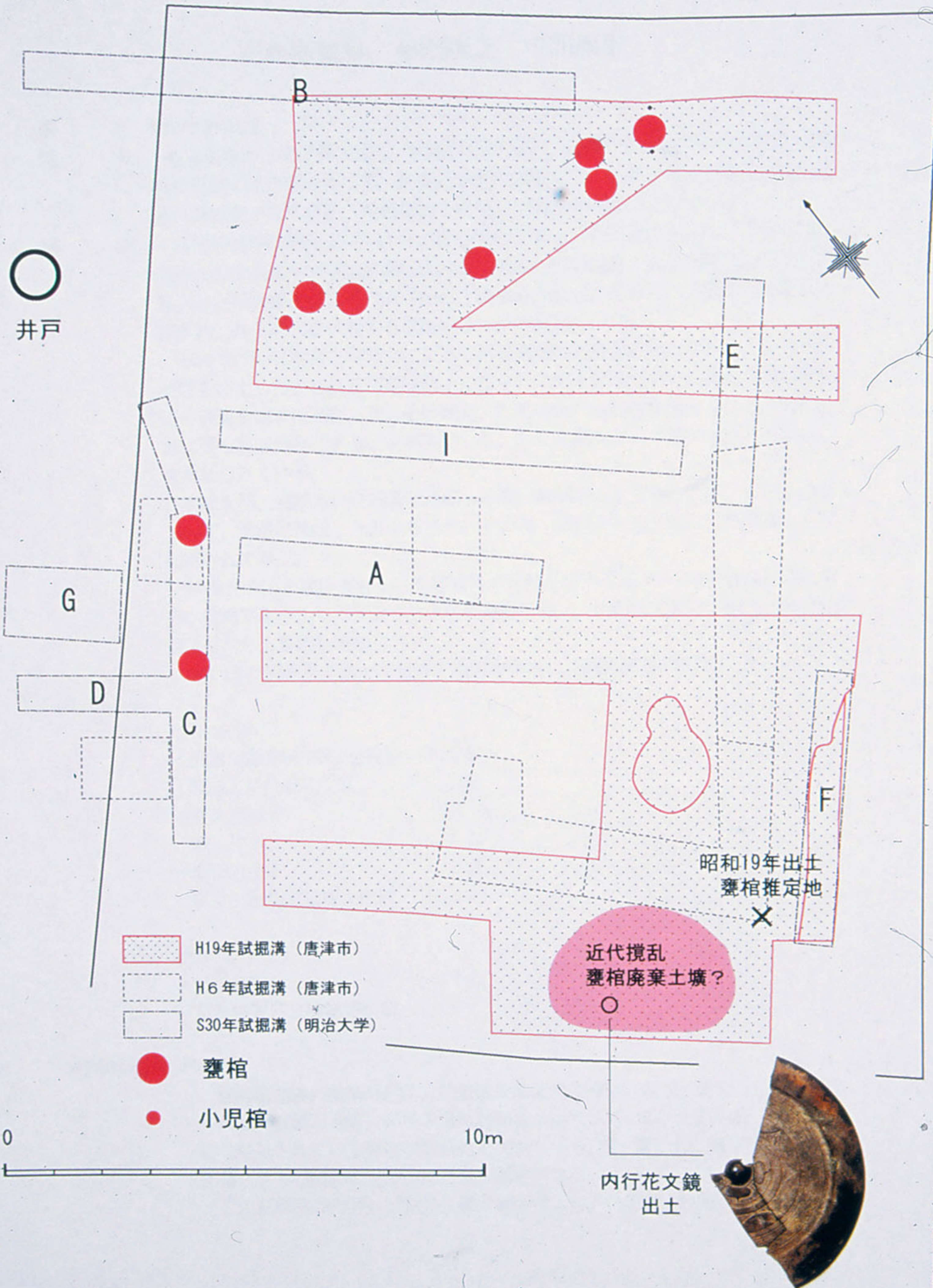
桜馬場四丁目

一声は
まずあいさつの
笑顔から
大成地区青少年協

08 123

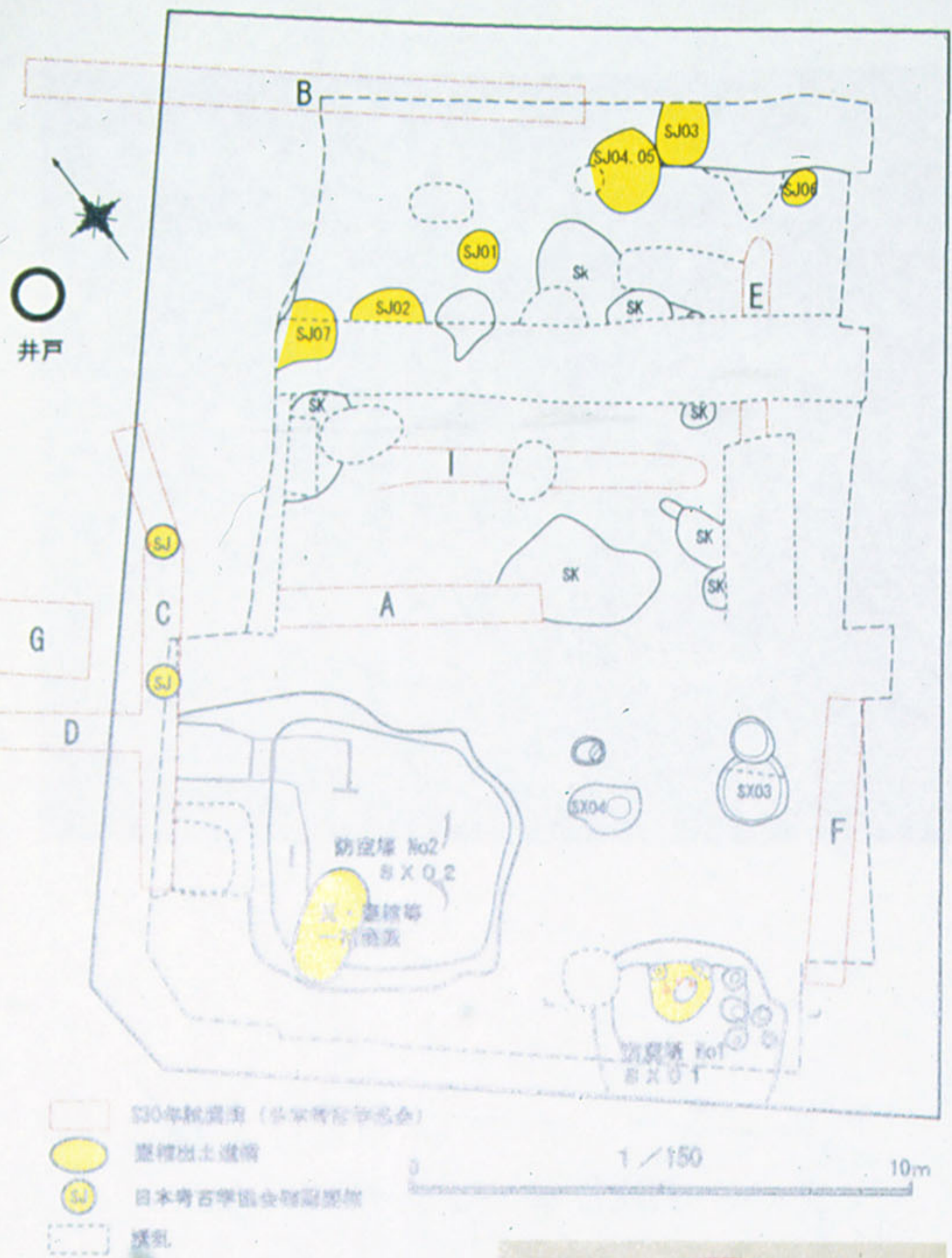


桜馬場遺跡トレンチ配置図





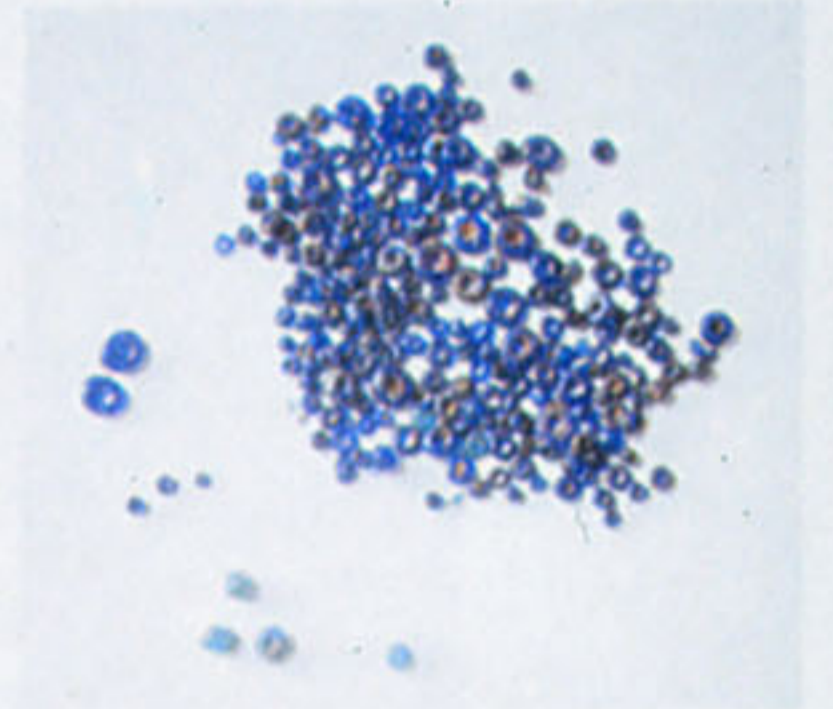
5. 桜馬場遺跡遺構配置図及び出土遺物



硬玉製勾玉 (ヒスイ)



ガラス製管玉



ガラス小玉



素環頭大刀片



厚部墓室棺



内行花文鏡 (接合)



巴形銅器

平成19年出土接合部



方格規矩四神鏡片 (接合)

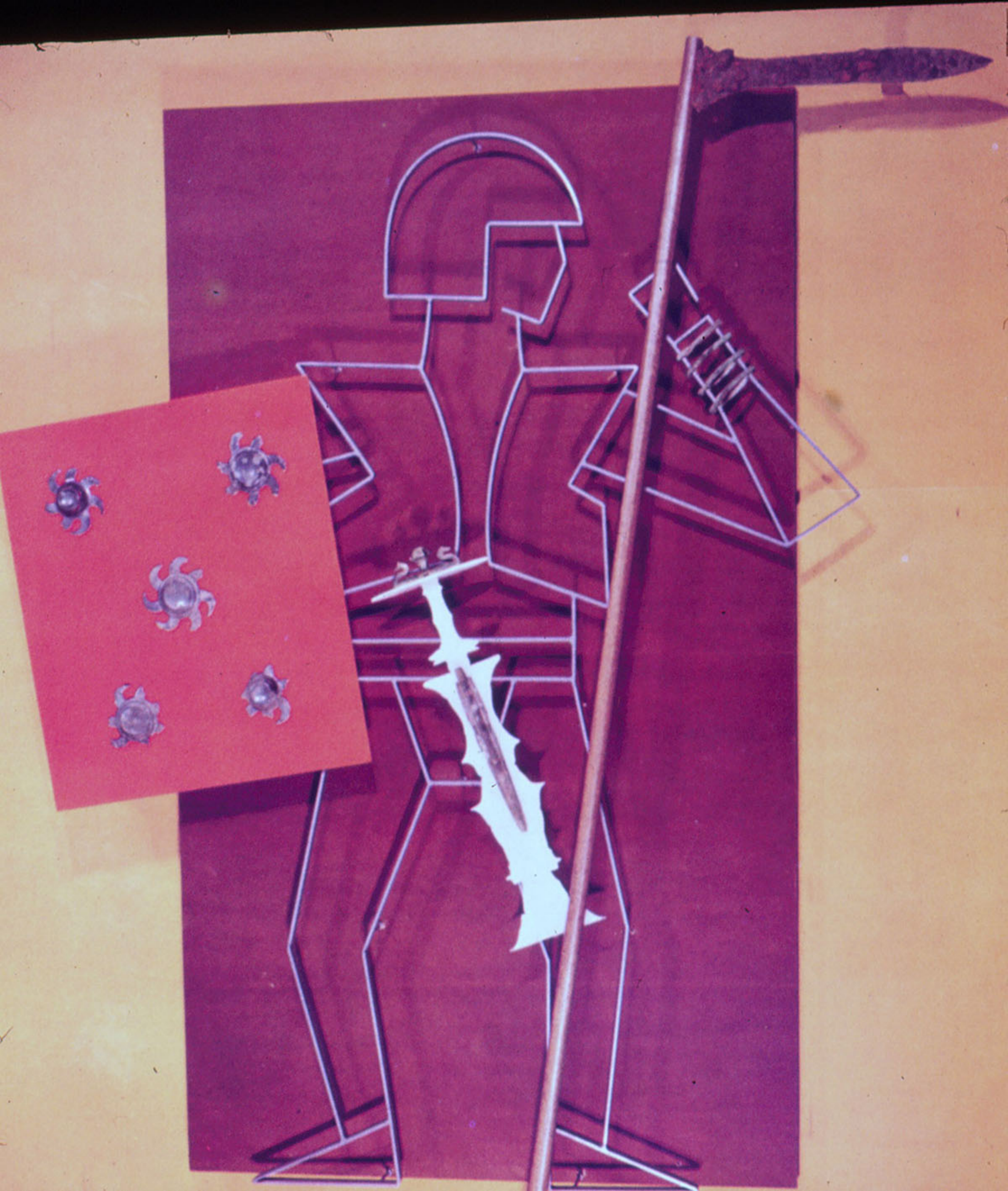


巴形銅器片 (接合)















なかぼる
弥生時代後期の墓（中原遺跡）

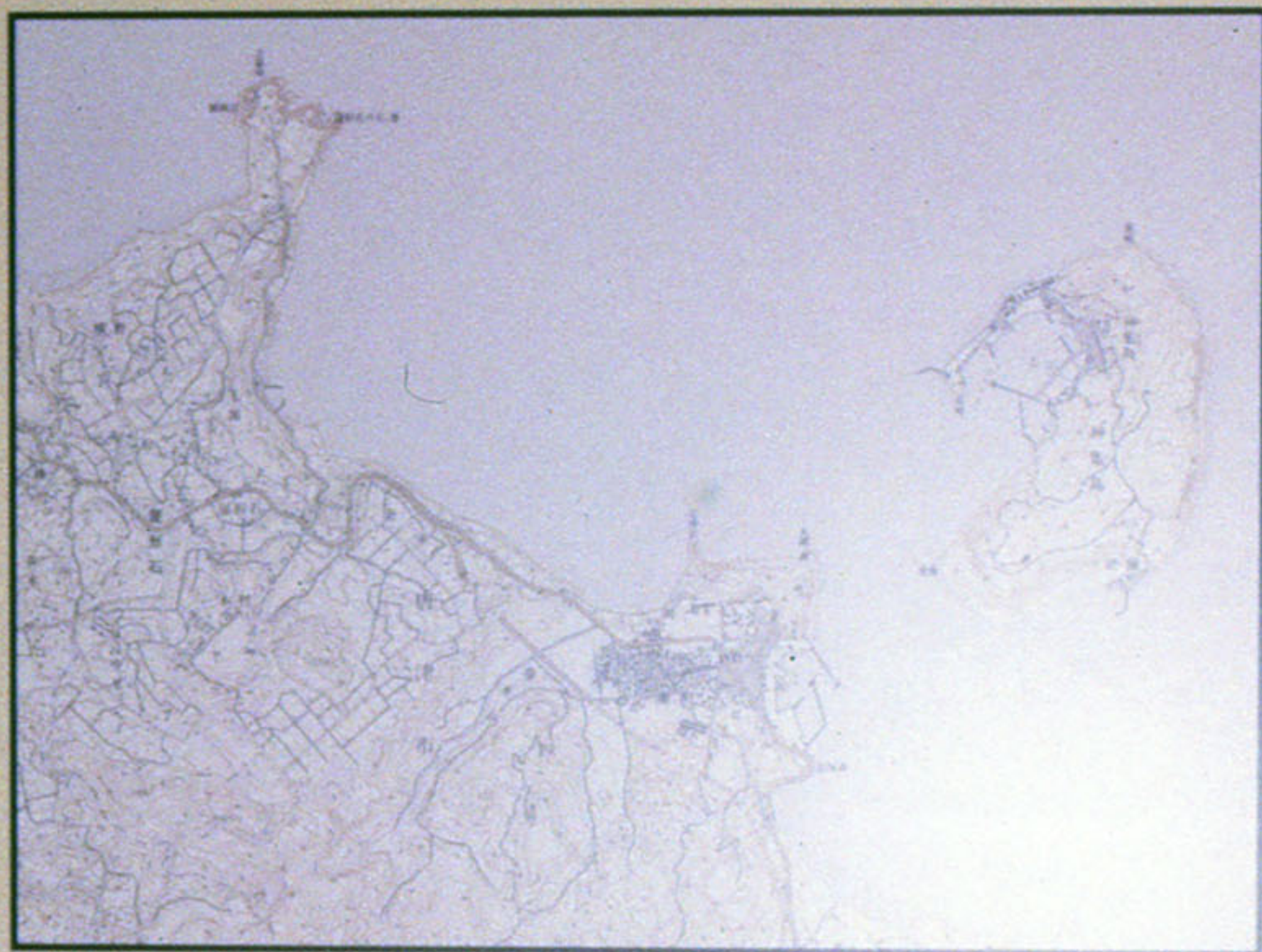


なかぼる
出土した割られた鏡（中原遺跡）



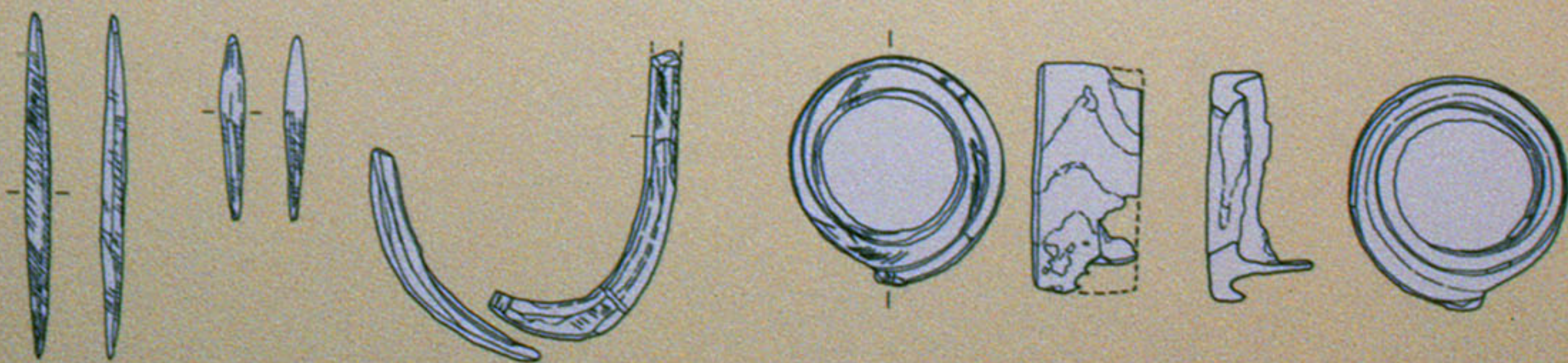
内行花文鏡の例 (中原遺跡 ST13415 出土品)

くもすぎ
雲透遺跡



東松浦半島の沿岸の台地上にある、弥生時代中期の住居跡、土壙、貝塚からなる小集落。谷に形成された貝塚は岩礁性の小巻貝を中心にしたもので、出土したヤス、釣針等の漁撈具は貴重なもので、魏志倭人伝の末盧国の記載を彷彿とさせるものです。

約10m×20mの範囲で形成された貝塚は弥生時代中期という限定された時期のものとして、漁撈活動を物語る好資料です。

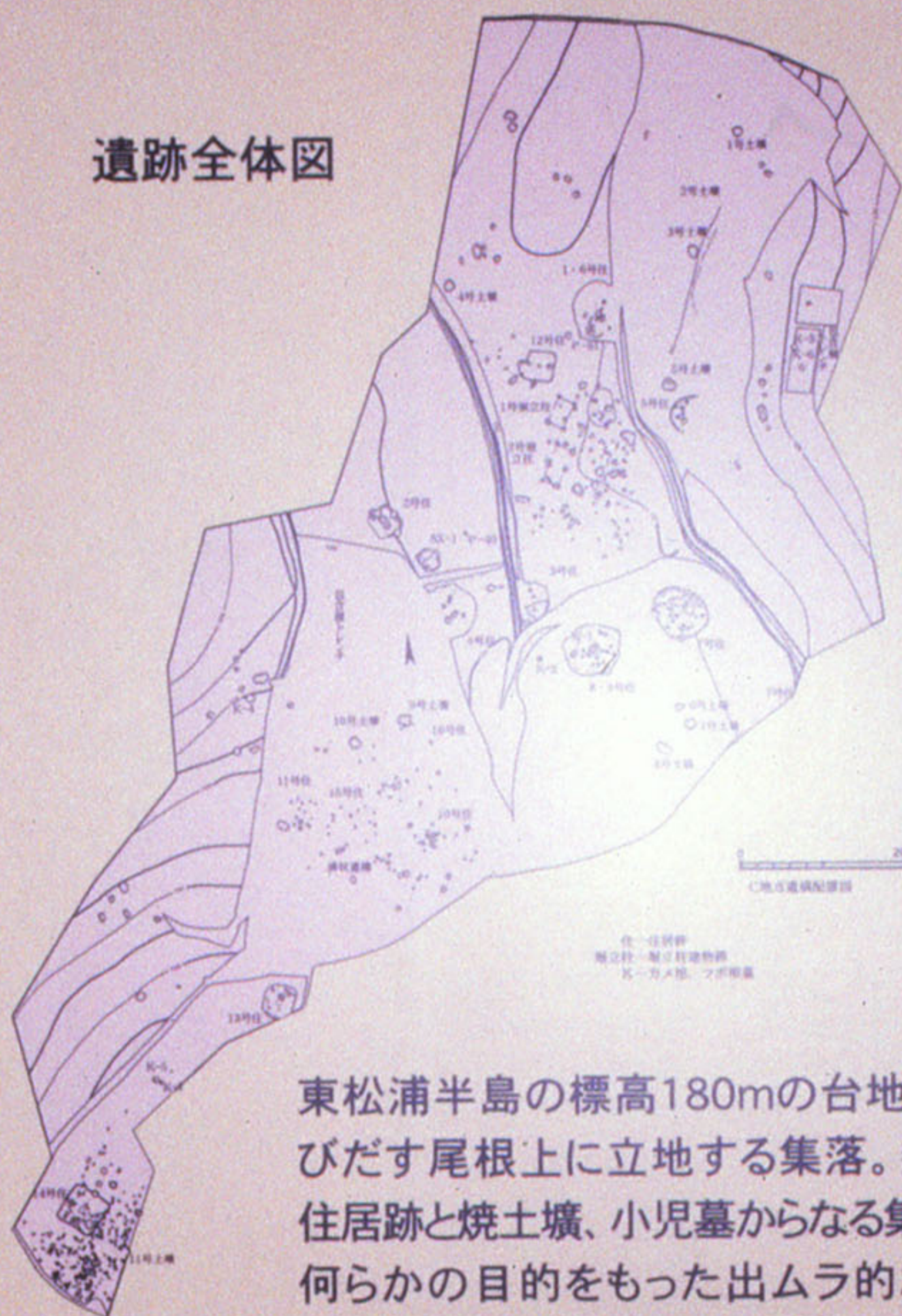


漁撈具
(骨製ヤス、鹿角製軸と猪牙製針の結合釣針)

イモガイヨコ型貝輪

湊中野遺跡

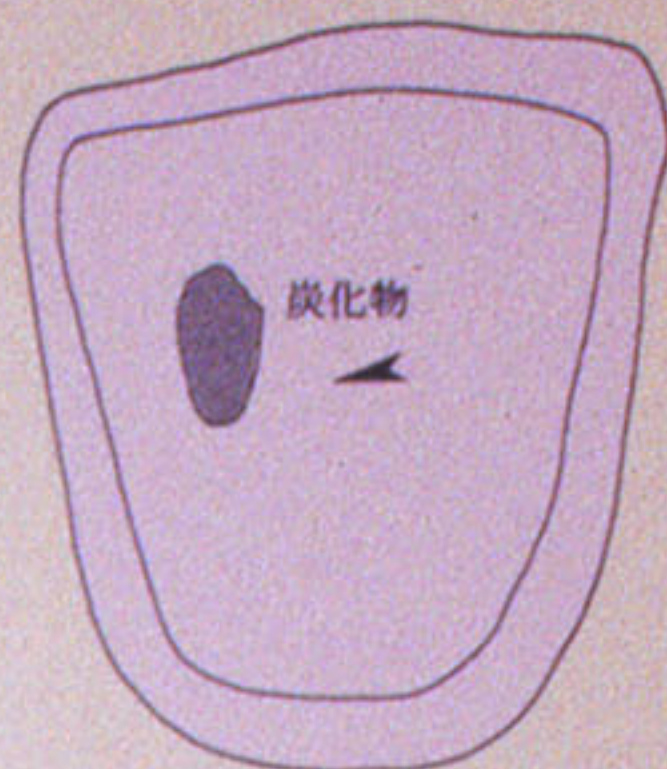
遺跡全体図



東松浦半島の標高180mの台地から延びだす尾根上に立地する集落。数棟の住居跡と焼土壙、小児墓からなる集落は、何らかの目的をもった出ムラの性格が想像されるものです。遺跡が営まれる弥生時代中期から古墳時代前期の間は倭国大乱を始め、日本のクニの成立にかかわる激動の時代であり、こうした社会を考える上で重要な集落です。

焼土壙

—130.5m



C地点9号土壙実測図

高地性集落 見張り台とのろし

丘陵斜面に作られた、約30カ所の焼土壙は径2m×1mの楕円形や隅丸方形のもので、壁面は赤く焼けています。外から見えやすい場所にあることから、「のろし」跡の可能性が高く、遺跡の立地する位置からも、見張り場的な機能をもったムラの可能性があるものです。



遺跡からは、沿岸の島々や遠く壱岐、糸島半島、可也山も望める見晴らしのよさからも高地性集落と呼ばれるものと考えてよいでしょう。



■久里双水古墳周辺の遺跡分布図



池ノ内古墳

新溜

久里双水古墳

新双水橋

双水迫古墳群

双水橋

双水柴山古墳群

山本駅

大塚上溜

大塚下溜

25

25

25

75

125

75

25











後円部石室全景 平縁盤龍鏡出土状況



平縁盤龍鏡
径12.1cm
久里双水古墳

終